

写真で眺める
南アメリカ州



↑→ **1** 熱帯林が広がるアマゾン川(上) (ブラジル、マナオス近郊) と熱帯林をめぐる観光船(右) (ブラジル、ポルトベリョ近郊) ↻ p.108、114



地平線まで、川なの？
そうだとすれば、
こんなに平らな川は
みたことがないね！



← **2** 大豆の収穫 (ブラジル、クイアバ近郊) 大豆畑は森林だった土地を切り開いてつくられました。 ↻ p.112

↓ **3** サッカー観戦を楽しむ人々 (ブラジル、リオデジャネイロ) この競技場は、ワールドカップの会場にもなりました。 ↻ p.113





↑4 マチュピチュ遺跡(ペルー、クスコ近郊、2019年) ⇨ p.110



↑5 バナナの選別工場(エクアドル、グアヤキル) ⇨ p.112



アルゼンチンの首都の町並みなのか。どこかヨーロッパと似ているね。



地図帳活用

南アメリカ州の鳥瞰図を眺めよう。



→↑6 ブエノスアイレスの町並み(右)(2019年1月)とステーキレストラン(上)(アルゼンチン、ブエノスアイレス) ⇨ p.109、110



南アメリカ州の学習を見通そう

⇨ p.117の振り返りでは、あなたの考える「写真で眺める南アメリカ州」をつくらう

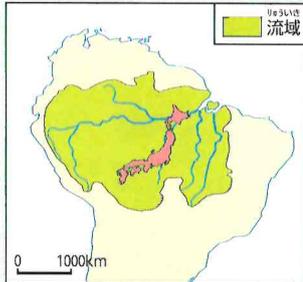
この節では、特に写真1や2にみられるような豊かな自然が広がる地域の「農地や鉱山の開発」を主題に、南アメリカ州がどのような特色をもつ地域なのか、学習していこう。



見直しスライド



5節の問い 南アメリカ州では、農地や鉱山の開発によって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。



↑2 アマゾン川の中流にあるマナオス港に寄港した大型船(ブラジル、マナオス)

←3 アマゾン川の流域面積と日本列島の比較 雨が川に流れ込む範囲を流域といい、その面積を流域面積とよびます。

資料活用 アマゾン川の流域面積と日本列島の面積の差に注目しよう。

↑1 南アメリカ州の自然

1 南アメリカ州の自然環境



南アメリカ州は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。

高地と低地が織りなす地形

南アメリカ州は、日本からみて地球の反対側にあたります。大陸の太平洋側には、標高6000mを超える山々がそびえるアンデス山脈が南北に続いています。アンデス山脈は世界最長の山脈で、北のベネズエラから南のチリまで約7500kmもあります。大陸の北部にはギアナ高地があり、その南には平坦なアマゾン盆地が広がります。また東部には、なだらかなブラジル高原が広がっています。

面積	アジア 23.9%	ヨーロッパ 17.0%	アフリカ 22.8%	北アメリカ 16.4%	南アメリカ 13.4%	オセアニア 6.5%
人口	アジア 59.2%	ヨーロッパ 9.3%	アフリカ 17.9%	北アメリカ 7.5%	南アメリカ 5.5%	オセアニア 0.6%

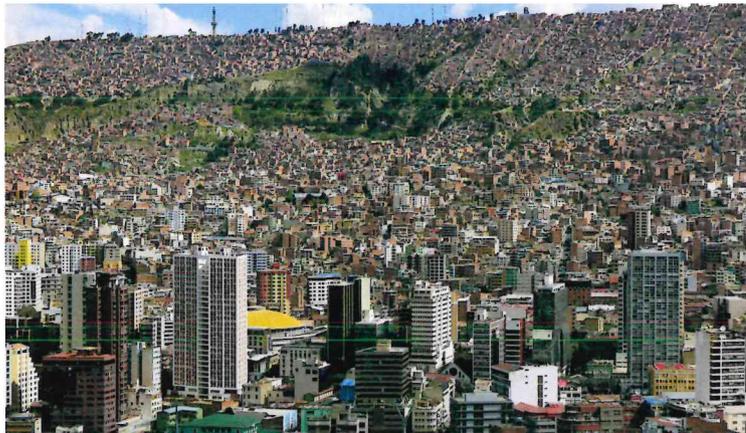
※ロシアはヨーロッパ州に含む。(2022年) [Demographic Yearbook 2022]

↑4 世界に占める南アメリカ州の割合

地図帳活用

- 南アメリカ州の植生と土地利用を確認しよう。
- 南アメリカ州の気温と降水量の分布を確認しよう。

アマゾン川は、ナイル川に次ぐ世界で2番目に長い河川で、赤道の近くを西から東へ流れています。川幅は広く、流域面積は世界最大です。また、川の流れは緩やかで、河口から1500kmさかのぼったマナオスでも、標高は約70mしかありません。そのため、海を航行する大きな船でも川をさかのぼることができ、外国からの船も数多くやってきます。



↑5 ラパスの町並み(ボリビア、2018年) 世界で最も標高が高い首都です。4000m以上の高地まで市街地が広がっています。

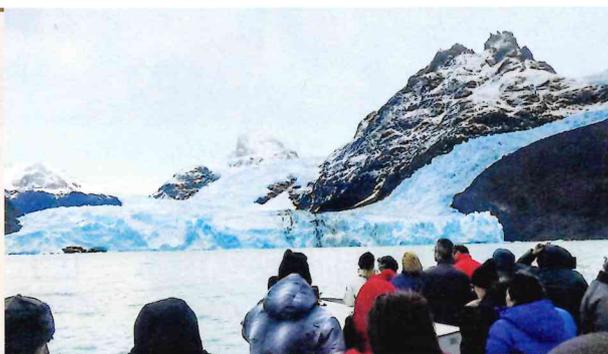


↑6 パンパでの牛の放牧(アルゼンチン、11月) 広大な平原で肉牛を放牧しています。牛肉はこの国の主な輸出品の一つです。

地理 プラス+

観光地となっている氷河地帯

アルゼンチンとチリにまたがるパタゴニアの山岳地域には、南極、グリーンランドに次ぐ規模の氷河があります。この氷河は、太平洋からの湿った風が山脈にぶつかって降る雪によってつくられました。氷河地帯は国立公園に指定されていて、アルゼンチンの主要な観光地の一つとなっています。なかでもペリト・モレノ氷河は、とけたり凍ったりを繰り返しながら、1日に2mも移動することがあり、これを見るために多くの観光客が訪れます。気温が上がる夏には、氷河の端で崩落が起こり、展望台や観光船から迫力ある氷河の姿を間近で見ることができます。



↑7 氷河を見学する観光客(アルゼンチン、ロスグラシアレス国立公園、ペリト・モレノ氷河、2016年9月)

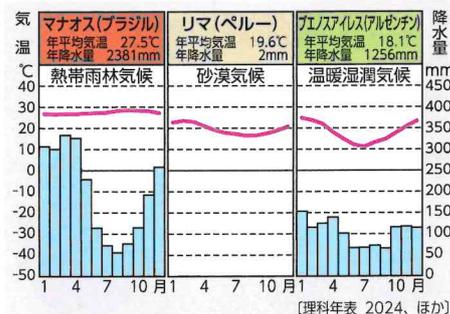
緯度と標高で 異なる気候

南アメリカには、熱帯から寒帯までのさまざまな気候がみられます。特に広いのが熱帯の地域で、

南アメリカの面積の半分以上を占めています。アマゾン川流域には世界最大の熱帯林が広がり、数多くの動植物が生息しています。その豊かな自然に触れるツアーは観光客に人気があります。

アンデス山脈では、多くの人々が、山あいにある高原や盆地で暮らしています。赤道に近い地域でも、標高が高い地域では過ごしやすい気候になるため、標高2000m以上の高地にラパスやクスコなどの大都市が発達しています。

- 10 アルゼンチンの中部やチリの南部は温帯で、ラプラタ川の河口付近にはパンパとよばれる大草原が広がります。ペルーからチリの北部にかけての太平洋沿岸や、アルゼンチンの南部は乾燥帯に属しています。例えば、ペルーのリマでは年降水量が10mm以下しかありません。南アメリカの南端は寒帯で、アルゼンチンとチリにまたがる山岳地帯には、氷河がみられる地域もあります。



↑8 南アメリカ州の主な都市の雨温図

資料活用 降水量の違いに注目しよう。



確認しよう

地図帳でアマゾン川を河口からさかのぼり、流域の広さを図1・3で確認しよう。



説明しよう

南アメリカ州の主な気候の特徴を、アマゾン川とラプラタ川周辺に分けて説明しよう。



すごくにぎやかそうだね！
どんな祭りなんだろう？

↑ 1 リオデジャネイロのカーニバル(ブラジル、リオデジャネイロ、2020年)

2 多様な民族や文化が混ざり合う社会

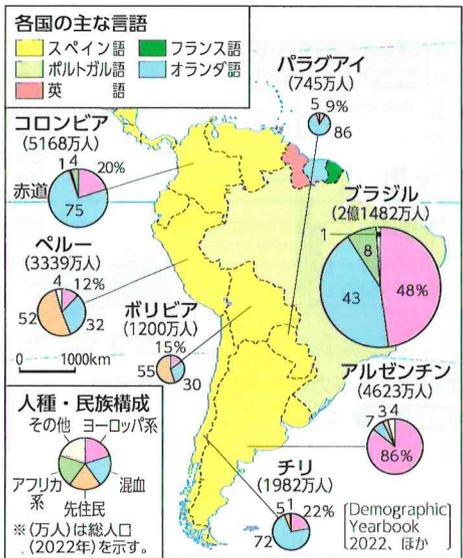
5節の問い 南アメリカ州では、農地や鉱山の開発によって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

南アメリカ州の国々の文化や民族の特色は、どのような歴史を経て、成り立っているのだろうか。

融合から生まれたさまざまな文化
華やかさで世界中に知られるリオデジャネイロのカーニバルは、ヨーロッパとアフリカの文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。カーニバルはもとも、ヨーロッパのカトリックを信仰する人々の行事ですが、アフリカ系の人々が持ち込んだ文化が加わったことで、サンバのリズムで踊るにぎやかな祭りに変化しました。アルゼンチンの舞踏音楽として知られるタンゴは、移民が集まる港町で、ヨーロッパやアフリカなどの音楽が混ざり合って生まれました。

多様な民族の共存
もともと南アメリカには、アンデス山脈のインカ帝国に代表されるように、先住民がつくった高度な文明が栄えていました。しかし16世紀になると、スペインやポルトガルなどのヨーロッパの人々が進出しました。彼らは先住民の文明を滅ぼして植民地をつくり、農地などを開発するとともに、ヨーロッパの文化を南アメリカに持ち込みました。そのため、現在でも多くの国々でスペイン語やポルトガル語が話され、キリスト教のカトリックが信仰されています。

植民地時代には大きな農場や鉱山で、先住民やアフリカから連れてこられた奴隷が厳しい環境で働かされました。先住民と白人との



↑ 2 南アメリカの主な言語と人種・民族構成
資料活用 ヨーロッパ系、先住民の割合が多い国に注目しよう。

① メキシコから南の地域は、ラテンアメリカとよばれています。言語や宗教などに、スペインやポルトガルなどのラテン系文化圏の影響を強く受けているからです。

ブラジルには約270万人の日系人が暮らしているといわれます(2023年)。日本からブラジルへの移住は1908年に始まりました。日本人移民は当初、コーヒー農園に住み込んで働きましたが、労働環境が厳しく、逃げ出してしまう人もいました。その後、自分の土地を所有して、野菜・果樹の栽培や鶏の飼育を始める人、都市へ移り住んで飲食店などを始める人が出てきました。日本人移民は子どもの教育を大切にしたので、その子孫の日系人は大学への進学率が高く、高度な技術職で働いたり、医師や弁護士になったりするなど、さまざまな分野で活躍しています。

1990年以降は、日本で法律が改正されたことにより、ブラジルなど南アメリカの国々から日本に来て働く日系人が多くみられます(→p.243)。



↑3 サンパウロの日本人街(ブラジル、サンパウロ、2016年) 近年は、中国や韓国出身者も多く暮らすことから東洋人街ともよべられます。



←4 タンゴを踊る人(アルゼンチン、ブエノスアイレス)

→5 アマゾン川流域の先住民と畑でとれたキャッサバ(ブラジル、ポアビスタ近郊) ブラジルでは、先住民の保護地区がつけられ、多くの人が暮らしています。



間には子どもが生まれ、メスチーツとよばれる混血の住民も増えました。19世紀の終わりにはイタリアやドイツをはじめとするヨーロッパから、20世紀になると日本からも、多くの移民がやって来るようになりました。その結果、現在の南アメリカには、先住民のほか、さまざまな人種や民族が共存して暮らしています。

先住民の暮らしと変化

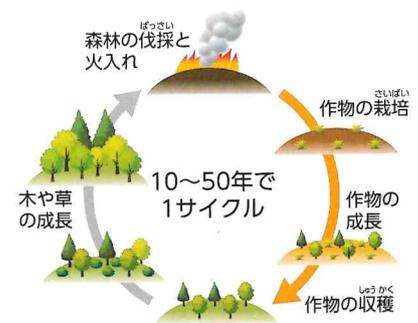
ペルーなどアンデス山脈の周辺では、先住民の人々が、とうもろこしやじゃがいもを栽培したり、アルパカを放牧したりする伝統的な生活をしています。また、熱帯林が広がるアマゾン川流域では、先住民が、木の実などの採集

や焼畑農業、川魚をとる漁業などで自給的な生活を送ってきました。

先住民の人々は、自然を崇拝する考え方など、固有の文化を守ってきました。しかし、開発や観光地化が進んだことによって、昔ながらの先住民の暮らしに変化が起こっている所もあります。例えば、アンデス山脈に暮らす先住民は、自給的な生活を送ってきましたが、現在では、織物などの工芸品を観光客に売って得た現金収入が生活の支えになっています。

解説 焼畑農業

森林や草原を焼き払い、その灰を肥料として作物を栽培する農業のことです。数年たつと土地がやせて、作物が育たなくなるため、別の場所に移動して、これを繰り返します。



↑6 焼畑農業のサイクル

南アメリカ州の国々で使用されている主な言語を、図2や地図帳で確認しよう

南アメリカ州に多様な文化や民族がみられる背景を説明しよう



1998年

←1 手作業でのコーヒーの実の収穫(ブラジル、ベレン郊外)

資料活用 写真1と2で働く人の人数に注目しよう。

コーヒーの収穫作業は、近年と以前とは、どんな風に変ったのかな？



→2 大型機械を使ったコーヒーの実の収穫(ブラジル、サンパウロ州、6月)



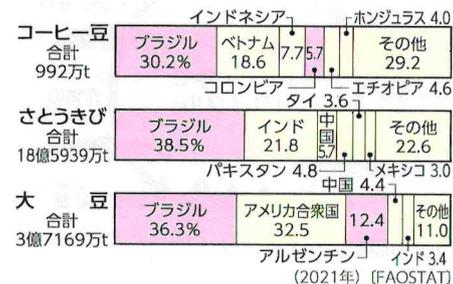
2010年

3

大規模化する農業と成長する工業

5館の問い 南アメリカ州では、農地や鉱山の開発によって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

① 大農園では、主にヨーロッパ系の地主が土地をもち、現地の人々が労働者として家族とともに住み込みで働いてきました。現在では企業が経営する大農園もあります。



↑3 主な農産物の生産国

地図帳活用

- ①大豆の生産が増えた地域を確認しよう。
- ②リオデジャネイロの様子を確認しよう。



学習課題

南アメリカ州の国々の産業は、どのように変化しているのだろうか。

各地にみられる大農園での農業

南アメリカでは、平野や高原を中心に大規模な農業がみられます。スペインやポルトガルの植民地だった時代に、各地に大農園が開かれ、ブラジルではさとうきびやコーヒーの栽培が、アルゼンチンのパンパでは小麦の栽培や肉牛の放牧が盛んに行われてきました。また、エクアドルやコロンビアなどの熱帯の海岸地域では、多国籍企業が経営するプランテーションで、輸出用のバナナの栽培が大規模に行われています。

農業の変化と農地開発

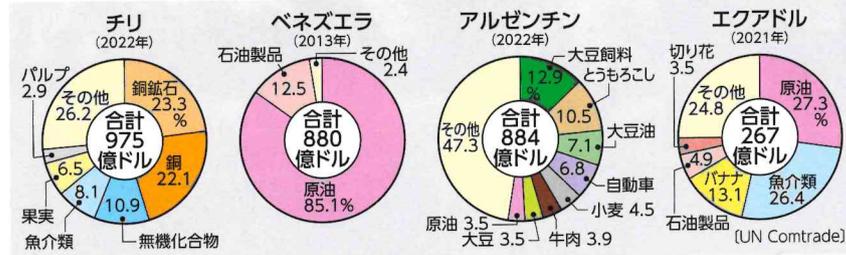
ブラジルは長い間、コーヒー豆の輸出に依存したモノカルチャー経済の国でしたが、近年では、コーヒー豆のほか、大豆やさとうきび、鶏肉・牛肉などの生産や輸出も増えています。特に大豆は、土壌や品種の改良が進んだ結果、かつては農業に不向きとされていたブラジル高原周辺でも大規模に栽培できるようになりました。ブラジルの主要な輸出品となった大豆は、アメリカ合衆国などのアグリビジネスを行う企業に大量に買い付けられ、大豆油や飼料にするために、中国などへ輸出されます。また、さとうきびは、砂糖だけでなく、ブラジルで普及し



←4南アメリカの植生と農業 **資料活用** 大豆やさとうきびの栽培が盛んな地域に注目しよう。



→5銅山での大規模な露天掘り(チリ) 地表を削って掘り下げていきます。



↑6南アメリカの主な国の輸出品

ているバイオ燃料の原料としても使われます。

豊かな資源と工業化

南アメリカは**鉱産資源**に恵まれており、ブラジルの鉄鉱石、チリの銅、ベネズエラやエクアドルの原油などは、輸出品として各国の経済を支えてきました。

資源の輸送のために、鉄道、電力、通信などの施設が整備され、後に工業にも利用されるようになりました。

ブラジルやアルゼンチンは、1960年代後半からアメリカ合衆国や日本などの外国企業を受け入れることで、鉄鋼や自動車などの重化学工業を成長させました。特にブラジルでは、航空機の輸出や大規模な海底油田の採掘も行われるようになり、急速に経済が発展しました。一方、アンデス山脈周辺の国々では工業化はあまり進んでおらず、鉱産資源や農産物の輸出に頼った経済が続いています。

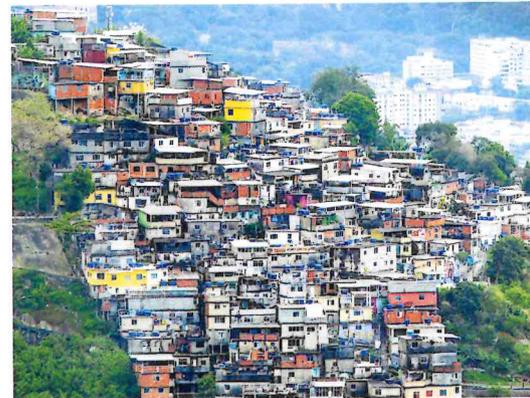
産業の発展に伴う課題

ブラジルでは、産業の発展によって都市化が進み、人々の生活水準も高くなりました。一方で、

都市と農村との間で経済格差も広がりました。農村では、農業の機械化が進み、農作業の手間が省けるようになった結果、職を失って都市へ移動せざるをえない人もいました。都市では、このような働く機会を求める多くの人が集まり、急激に人口が増えたことにより、山の斜面や河川敷などに**スラム**が形成されました。スラムでは、犯罪の発生やごみの増加など、劣悪な居住環境が問題となっており、経済格差をなくすための取り組みが求められています。



↑7航空機の組み立て工場(ブラジル、サンパウロ近郊、2015年)



↑8山の斜面に広がるスラム(ブラジル、リオデジャネイロ、2019年)

南アメリカ州の国々で生産や輸出が盛んな農産物や鉱産資源を、図3・6で確認しよう。

ブラジルで急速に産業が発展した背景と、そこから生じた課題を説明しよう。



↑ 1 熱帯林を切りひらいてつくられた牛の放牧地(ブラジル、パラ州、4月) **小歴公**

1 声 牧場で働く人の話

北アメリカで肉牛の病気がはやっつたときに、ブラジル産牛肉の需要が急速に増えました。そのとき、牧場の開発が進みました。熱帯林を伐採して牧場をつくると、1~2年の間は牧草がよく育つけれど、しだいに牧草の育ちが悪くなります。そうなったら、その土地を放棄して、また森を切りひらいて新しい放牧地をつくるんです。



なぜ切り倒された熱帯林のなかに牛がいるのかな？

4

ブラジルにみる開発と環境保全

5 節の問い 南アメリカ州では、農地や鉱山の開発によって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。



学習課題

ブラジルでは、アマゾンなどで熱帯林の開発が進むことによって、どのような影響が生じているのだろうか。

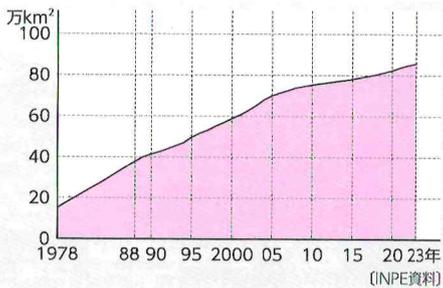
熱帯林の開発

ブラジルのアマゾン川流域は、長い間手つかずの自然が残る土地でした。しかし 19 世紀になると、中流域のマナオスを中心にゴムの大農園がつけられました。さらに 20 世紀後半には、経済を発展させる目的で大規模な開発が始まりました。

例えば、鉱山を開発するために熱帯林が切りひらかれ、鉄鉱石を運ぶための鉄道がつけられました。その鉄鉱石は日本などに大量に輸出されており、自動車などの原料として利用されています。また、アマゾン盆地を横断する大きな道路が開通すると、道路沿いの熱帯林が広い範囲で切り出され、木材として世界各地へ輸出されました。伐採の跡地は肉牛を飼育する牧場や農地に変えられました。最近では、増えてきた電力需要に対応するため、アマゾン川の支流でダム

熱帯林伐採の影響と保全の取り組み

熱帯の土壌はもともとやせており、ひとたび熱帯林が伐採されると、熱帯特有の強い雨によって養分が洗い流されてしまうので、その土地を元に戻すのは大変難しくなります。また、熱帯林の伐採によって、植物の光合成による二酸化炭素の吸収量が少なくなり、地球温暖化が進むと

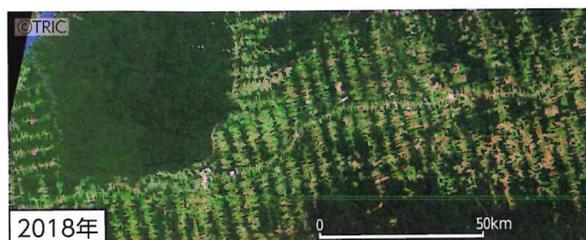


↑ 2 アマゾンの森林伐採面積の累計 **小歴公**

資料活用 日本の面積 38 万 km² を参考に、伐採された森林の広さに注目しよう。

地図帳活用

ブラジルにおいて熱帯林が開発された地域を確認しよう。



↑3 アマゾン川流域の熱帯林の伐採(ブラジル、パラ州) 道路から外側に延びる伐採の跡は、魚の骨のように見えるため、フィッシュボーンとよばれます。 **小 鹿 公**

↑4 さとうきび畑に囲まれた製糖・バイオ燃料精製工場(ブラジル、サンパウロ州、リベイロンプレート、5月) 土壌の流出を防ぐために、等高線に沿って帯状にさとうきびが作づけられています。

考えられています。さらに、貴重な動植物が絶滅したり、先住民の生活がおびやかされたりすることも心配されます。

そこで、アマゾン川流域の熱帯林を将来にわたり保全するため、さまざまな取り組みが行われています。熱帯林の一部は、国立公園や世界自然遺産などの保護地域となっていて、開発が規制されるようになりまし

また、人工衛星から熱帯林を監視するしくみも導入され、違法な伐採や大規模な火災による森林の焼失などを、いち早く確認できるようになりました。このしくみには、日本の技術も生かされています。これらの取り組みの結果、違法な伐採は減ってきてはいますが、監視の目をすり抜けて熱帯林を伐採する例はなくな

ブラジルでは、さとうきびを原料とする**バイオ燃料**で走る自動車が普及しており、二酸化炭素の排出量を抑える取り組みとして注目されています。燃料用のさとうきびの生産は、バイオ燃料を精製する工場が集中するサンパウロ州などの南東部で急増しています。しかし、さとうきびの生産を増やすために、草や木で覆われていた土地が開発されて農地になると、雨で土が流されてしまうなどの問題が起こります。

バイオ燃料の普及のように、環境に配慮した取り組み自体が、その土地のもともとの環境を崩してしまうこともあり、開発と保全のバランスをとった持続可能な開発を行うことが課題となっています。

解説 バイオ燃料

さとうきびやとうもろこしなど、主に植物を原料としてつくられる燃料のことです。大気中の二酸化炭素を吸収して光合成する植物を原料とするため、燃やしても計算上は大気中の二酸化炭素が増加せず、環境に優しいエネルギーであるとして注目されています。



↑5 バイオ燃料が売られるガソリンスタンド(ブラジル、サンパウロ州、2019年12月)

日本円にすると、ガソリンは1リットルあたり約110円、バイオ燃料は約75円になります(撮影日時点)。

確認しよう

熱帯林がどのような目的で伐採されてきたのか、図1や本文で確認しよう。

説明しよう

熱帯林などの開発によって、どのような影響があるのか、説明しよう。



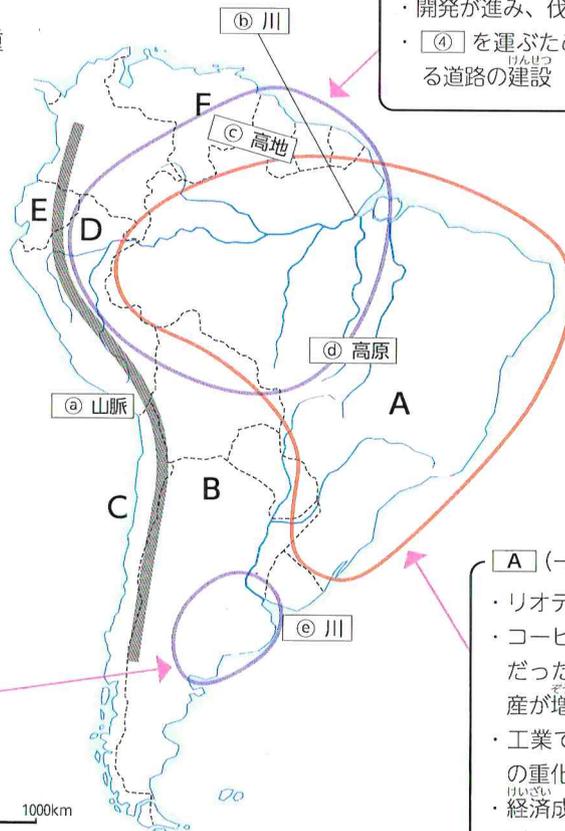
- = 5 節の問い = 見方・考え方 人間と自然の関わり (→巻頭 8)
- 南アメリカ州では、農地や鉱山の開発によって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

節の振り返り 1 学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう 知識 地図帳活用

1. A ~ F にあてはまる国名を答えよう。
2. ㉑ ~ ㉒ にあてはまる山脈名、河川名、高地・高原名を答えよう。
3. ① ~ ⑥ にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

広大な熱帯林 (→ p.108 ~ 109, 111, 113 ~ 115)

- ・ ③ による焼畑農業
- ・ 開発が進み、伐採の跡地は牧場や農地などに変化
- ・ ④ を運ぶための鉄道やアマゾン盆地を横断する道路の建設



南アメリカの国々 (→ p.110)

- ・ 言語や宗教などに残る ① 支配の歴史

豊富な鉱産資源 (→ p.113)

- ・ ブラジルの鉄鉱石、チリの銅、ベネズエラやエクアドルの原油などは重要な輸出品

B の大平原 (→ p.109, 112)

- ・ ㉒ 川の河口付近に広がる ② とよばれる草原では、小麦の栽培や肉牛の放牧が盛ん

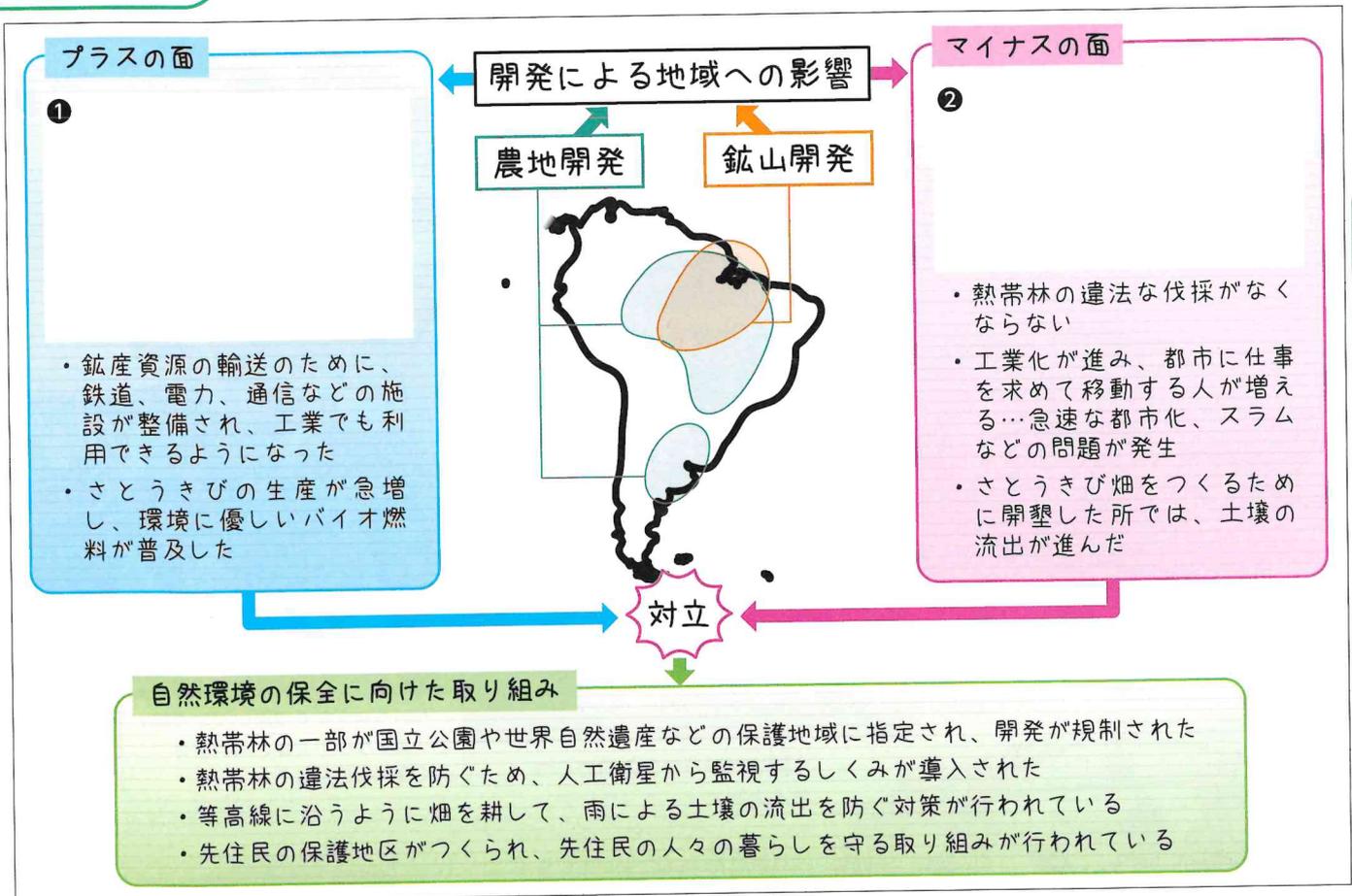
A (→ p.110 ~ 115)

- ・ リオデジャネイロのカーニバルが有名
- ・ コーヒー豆の輸出に依存した ⑤ の国だったが、④ 高原などでは大豆の生産が増加
- ・ 工業では、鉄鋼や自動車、航空機などの重化学工業が発達
- ・ 経済成長の一方で、都市では ⑥ とよばれる居住環境の悪い地域も形成

↑ 1 白地図を使ったまとめ

節の重要語句 簡単な説明ができた語句にチェックを入れよう。

- | | | | |
|---------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> アンデス山脈 | <input type="checkbox"/> 先住民 | <input type="checkbox"/> プランテーション | <input type="checkbox"/> スラム |
| <input type="checkbox"/> アマゾン川 | <input type="checkbox"/> 植民地 | <input type="checkbox"/> モノカルチャー経済 | <input type="checkbox"/> 地球温暖化 |
| <input type="checkbox"/> 熱帯林 | <input type="checkbox"/> 奴隷 | <input type="checkbox"/> アグリビジネス | <input type="checkbox"/> バイオ燃料 |
| <input type="checkbox"/> パンパ | <input type="checkbox"/> 焼畑農業 | <input type="checkbox"/> 鉱産資源 | |



↑2南アメリカ州における開発の影響をブラジルを中心としてまとめた例

1節の問いについて、図でまとめよう

◆この節の学習を振り返りながら、図2の①・②を埋めて、ブラジルにおける、農地や鉱山の開発による影響についてまとめた図を完成させよう。

2節の問いについて、考えを深めよう (対話)

◆図2をもとに、ブラジルの農地や鉱山の開発による地域への影響を表す写真を、教科書やウェブサイトなどから1枚選ぼう。

◆グループになって、選んだ写真とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの「写真で眺める南アメリカ州(→p.106～107)」をつくり、地域の特徴を示すタイトルをつけよう。

3節の問いを踏まえて地域の特徴をまとめよう

◆図2と②をもとに、南アメリカ州の特徴を文章で簡単にまとめよう。

5節の問い

南アメリカ州では、農地や鉱山の開発によって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

ヒント1 南アメリカ州の農地や鉱山の開発の背景や特色は？

ヒント2 開発によるプラスの面やマイナスの面、課題の解決への取り組みは？

振り返り 主体的な学び

●節の問いの解決に向けて主体的に取り組むことが
よくできた できた あまりできなかった
 →よくできた点や改善したい点などを書き出そう。

●節の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことなどを書き出そう。